



結論

其一 近時金銀價格變動ノ原因及其一級ノ結果

第一 金銀價格變動ノ原因

金銀價格ノ割合ニ寛政二年(西曆千七百九十年)以後明治六年(西曆千八百七十二年)ヲ除ク外全一ニ對スル銀千五割ナリシモ明治七年(西曆千八百七十四年)ニハ全一ニ對スル銀千六割ナリ雨者ノ差漸次甚シキヲ以テ明治廿七年(西曆千八百九十四年)三月ニ至ラハ全一ニ對スル銀千四余トナレリ今其是ニ至リシ原因如何ヲ論定スルニ當テハ之ヲ彼ノ需要供給ノ大原則ニ依リテ金銀各自ノ需要供給ノ如何ヲ決定シテ後兩者ノ需要供給ノ程

度ヲ比較スルヲ以テ正當ナル方法ナリトス

金ノ需要ハ近年非常ノ深カラシテ増加シ則チ歐洲諸國
國々金單位ヲ採用シ又金單位ヲ採用セラルモ密カニ
金ヲ吸收スルノ策ヲ執ルカ爲メ貨幣中トシテノ需要著シク
増進セルノミナラズ各國人民ノ嗜好ノ類リ金ニ白キ其工業
用品トシテ使用セラレバ數量モ亦決シテ少ナレトセズ其他少量
ニシテ高價ヲ有シ且テ將來價格下落ノ憂ナキ事ヨリシテ
貯藏スルモノモ又アルハク是等ノ作用ニ相合シテ金ノ需
要ヲ増進セリ

今ヤ翻テ金ノ供給如何ヲ緝スルニ嘉永四年(西曆千八百
十一年)頃末國及濠洲ニ於ケル金坑發見以來十餘年
間ニ其產額多少ノ増加ヲ爲シタルニ爾來減少ノ一方ニ

傾キ最近而三年間ハ價格騰貴ノ爲メ稍々多少増加
ノ傾キヲ生シタリ然レトモ本ノ以テ其需要ヲ充タス
ニ足ラサルナリ果シテ然ラバ需要供給ノ原則トシテ金ノ
騰貴シタルニ歎ク容レサルナリ

次ニ銀ノ需要ヲ考フルニ市態金々金ノ反對ニ出テ獨
リ貨幣上ノ需要ノミナラズ工業用貯藏用トシテ使用
セラレモノモ亦減少シ銀ノ吸收ヲ以テ有名ナル程度ノ如
キニ近時其吸收力ヲ弱メタルモノ如ク且テ將來銀ノ需
要ヲ増加スヘシト豫期セラレタル未開諸國モ亦其域ニ
達セス隨テ銀ノ需要一單ニ減少ノ一方傾キナリ
又銀ノ轉シテ銀ノ供給如何ヲ觀察スルニ明治四年(西
曆千八百七十一年)頃マテハ其產額増加ノ割合激甚ナラシ

リシモ同年以後、非常ノ速カヲ以テ増進セリ之ニ加フル
 獨國等カ機會アラハ其貯蔵銀ヲ賣却セントスルノ
 傾向アルヲ以テス夫レ此ノ如ク其供給ニ増加スルノミニシテ
 需要ニ減少ス豈ニ銀ノ下落ヲ防過スルノ途アラシヤ
 今ヤ金ノ供給ニ其需要ヲ充タスニ足ラスレラ之ニ及ビ銀
 ノ供給ニ其需要ニ超過スルコトヲ辨明セリ果シテ然ラ
 金ニ凡百ノ物品ニ對シテ騰貴スルニ及ビ銀ハ下落セザラ
 得ズ然レトモ金貨國ニ於ケル物質騰貴ノ著シクシテ銀
 貨國ニ於ケル物價下落ノ甚シカラサルヲ以テ直ケニ金
 ノ騰貴ハ銀ノ下落ニ比シテ其程度強大ナリト斷言
 スルヲ得サルニ是レ物價ハ各物品ノ生産高ト使用
 高ト比較其他生産運搬費等ノ多少ニ依リ自ラ高

下スヘキ理由ヲ有スルモノナレハナリ故ニ金ノ騰貴ト銀ノ
 下落ト其程度孰レカ強キヤヲ知ラント欲セハ兩者ノ需
 要供給ヲ比較スルヲ以テ正當トス今之ヲ換言スレバ依リニ
 金ノ需要増加ヲ一倍則ケ百其供給ノ減少ヲ五割
 則ケ五十トセハ金ヲ騰貴セシムルカニ百五十トナルハク
 而シテ銀ノ供給ノ増加ヲ二倍則ケ二百其需要ノ減少
 ヲ五割則ケ五十トセハ銀ヲ下落セシムルカニ二百五十トナ
 ルヘク果シテ然ラハ是ニ於テ始テ銀ノ下落ハ金ノ騰
 貴ニ比シ其程度強シト考メコトヲ得ヘキナリ要スルニ金銀
 騰貴下落ノ程度ヲ判定スルニ當ラハ之カ標準ナラ
 自ラ動搖ナキナキ物價ニ依リテ之ヲ定メ之ヲ兩者
 需要供給ノ比較ニ求ムルヲ精確ナルニシテ之ヲ以テ金

銀、較差ニ變動ヲ生シタルハ明治初年ニシテ金産出ノ減
少ト銀産出ノ増加トモ亦恰ニ之ト其時期ヲ同シクスル以
上ニ益ニ以テ金銀價格ノ兩者需要供給ト密接ノ
關係ヲ有スルヲ知ルニ足ルヘシ

現在世界一般人民ノ嗜好ノ金ニ恣スルハ多言ヲ俟リス
蓋シ独リ金ノ性質光澤等ノ之ヲ然ラシムルノミナラス
其銀ニ比シ獲得スルコトノ容易ナラスシテ生産費ヲ要
スルノ多キコトモ亦此嗜好ヲ養成スルニ與テ力アリ蓋シ
彼ノ銀鑄ハ多ク祭見セラザルノミナラス銀ノモツタル製
鍊モ容易ニシテ殆ト金ノ副産物トシテ取得セラルルノ
一事ニ將來ニ於ケルニ世入ヲシテ益々金ヲ貴ヒ銀ヲ賤
マシムヘキ結果ヲ生スヘキナリ隨テ世人ノ金銀ニ對スル

嗜好顛例シ金銀生産ノ上ニ一大激變ノ發生セサル限
リハ法律其他人為ヲ以テ如何ナル方畧ヲ加フルモ独リ貨
幣上ノミナラス大抵上銀ニ下落スルトモ金ノ益々貴重
セラルルコトハ數ノ免シ難キ所ナルヘシ

要スルニ近年金銀比價變動ノ原因ハ兩者需要
供給ノ如何ニ存シ又將來ニ於テモ金ハ益々騰貴スル
銀ハ愈々下落スヘキ傾向アルコトヲ確認スルコトヲ得ハキ
ナリ唯其兩者高下ノ程度孰レカ甚シキヤヲ知ラントセ
ハ兩者ノ需要供給ノ如何ヲ精密ニ比較シタル後始テ
之ヲ知ルヘキナリ

第二章 金銀價格變動ノ結果トシテ(他日再行シテ之ノ動キモトセ)

金貨國に於テハ物價ノ下落ハ銀貨國に於テハ物價ノ騰貴スヘキニ當然ナリトモ然レトモ既ニ述ベタル如ク物價ハ各々自ラ變動スルモノ有スルカ故ニ今日金貨國ニ於ケル物價ノ下落ハ銀貨國ニ於ケル物價ノ騰貴ヲ見ラ全然ニ對テ全銀貨國ノ變動ニ伴フル一析、其當ヲ得ルモノナリ

金貨國ニ於ケル一般物價ノ下落ハ何人ノ認ムル所ナリトモ亦物品ニヨリテ其價格ノ騰貴セルモノナキニテサカレナリ實ニ物價ハ其物品生産ノ費用、數量及需要ノ多少等ニ依テ自ラ高下スルモノニシテ今日金貨國物價一般ノ下落ハ主として生産上ノ改良、進歩及生産ノ過剩等ニ原因セリト謂フハナリ故ニ例セハ

(イ) 物價ノ下落
 (ロ) 農工商業ノ不振
 (ハ) 債権者ノ利益及債務者ノ損失
 (ニ) 雇主及被雇人ノ困難
 (ホ) 銀貨國ヨリ輸入物品價格ノ下落及輸入物品ノ増加
 (ヘ) 國庫歳入及歳出ノ減少

ノ如キ固ヨリ幾分カ金ノ騰貴ト多少ノ關係ヲ有ストモ全然ニ之カ結果ナリト云フコト能ハサルニ至ラズ亦結果ノ甚ク間接ナルモノニ過キサルナリ

凡ソ物價ノ下落或一部ノ人民ニ取リテハ利益ナル結果ヲ生ズヘシトモ之ヲ全局ヨリ觀察スルトモ決シテ全ク利益ナキモノトアラス殊ニ國民ノ多數ヲ占ムル消費者ノ点ヨリ(生産者トモモ

貨幣ノ地位ニ至ツトアルニ見ルニ、まフトキハ物價ノ下落ニ當リテ希望
スヘキ所ナリ況ニヤ輸出ノ増進ハ一般人民幸福ノ増加ハ物價ノ下落
ノ恩惠ニ出ツルモノナリ於テオヤ故ニ今數歩ヲ譲リ金貨ノ國物價ノ下
落ヲ金銀價格變動ノ結果ニ出ツルモノト仮定スルモ敢テ深ク
直受フルニ足ラサルナリ

次ニ銀貨國ニ就キ之ヲ觀察シ下クサンニ銀ノ下落ノ結果トシテ幾
分ノ物價ノ騰貴ヲ認ムルヲ得ヘキモ決シテ豫想ノ如ク甚シカラサル
現象アリ是レ亦決シテ怪ムニ足ラサルナリ則チ他ニ物價ヲシテ下落セシムル
用ノ存在スルハナリ故ニ銀貨國ニ於ケル一般物價ニ非常ニ變動ナキヲ理由ト
シテ銀價ニ變動トシテ所定スルカ如キハ頗ル危險ノ推測ヲ免レズ折
銀貨國ニ於テ又生産上ノ改良進歩若クハ需要供給ノ關係等ニ因
リ現ニ價格ノ下落セル物品アリ或ハ其騰貴ノ金銀價ノ較差ニ伴
ハル物品アル如キハ以テ自ラ變動スルカハ物價ヲ標準トシテ金銀價
格變動ノ如何ヲ測定スルノ不可ナラズ証明スルニ足ルハナリ
故ニ例セバ

- (イ) 物價ノ騰貴
- (ロ) 農工商業ノ振起及輸出ノ増進
- (ハ) 債務者ノ利益及債権者ノ損失
- (ニ) 金貨國ヨリノ輸入物品價格ノ騰貴及輸入物
品ノ減少

(ホ) 國庫歳出及歳入ノ増加

ノ如キハ銀ノ下落ノ多少ノ關係ヲ有スヘキモ全然之ヲ直
接ノ結果ナリト速断スヘキナラズ
又物價ノ騰貴ハ生産者ノ如キ或ハ一部ノ人民ニ取リ
テハ一時頗ル有益ナル結果ヲ生スヘキモ遂ニハ原料價
銀ノ如キモ騰貴シ早晩其利益モ消滅ニ帰スヘシ且
ツ一國全體ヲ考フルトキハ弊害損失ナキヲ免レズ殊ニ

注目スヘキ消費者就中労働者、因難ヲ惹起シ國
 民ノ幸福ヲ減削シ甚シキに至リ、投機的事業ヲ煽
 動シ者多ク弊ヲ劇致シ或ハ社會ノ基礎ヲ危殆高
 敗ノ域ニ陥ルニ至ルコト則チ是レナリ故ニ物價ノ騰貴ハ
 金銀價格變動直接ノ結果ニテラストモ、若モ此現
 象ヲ認ムルニ於テハ豈ニ恐レサルハケンヤ
 今ヤ金銀價格變動直接ノ結果ト認ナラ可ナルモノ
 ナル解マルニ

(1) 金貨國及銀貨國間ノ為換相場ヲシテ高低
 常チカウシメ大ニ兩者ノ商業取引ヲ滯滞セシメ
 隨テ貿易ニ從事スルモノヲシテ不測ノ損害ヲ
 蒙ラシメ外國貿易ヲシテ一種ノ投機的事業
 タラシムル事

(2) 金貨國より銀貨國ニ投下スル資本ヲ減少シ却
 テ銀貨國ノ資本ヲ金貨國ニ注ハスルノ傾向ヲ
 生ゼシメ隨テ資本運轉ヲシテ自然ノ軌道ヲ
 外レシムル事

等ノ如キ則チ是レナリ
 要スルニ金貨國ニ於テ物價ノ下落等或ハ銀貨國
 ニ於ケル物價ノ騰貴等ハ金銀價格變動ニ多少

關係ヲ有スルモノ也然直接ノ結果トモ謂フハキモノ
單ニ金貨國及銀貨國彼我高率取引ノ滯滞又
資本運轉軌道ノ變化等ニ過キサルナリ

其二 近時金銀價格變動ノ本邦經濟上ニ

及ホス影響

今日ノ實際ニ於テ本邦ニ亦銀貨國ノ一タラシ以テ一
般銀貨國カ受ル所ノ影響ヲ蒙ルニ勿論ナリト
雖モ其間多少厚薄淺深ノ差アルノミナラズ亦特
殊ノ現象ナキニシモアラズ項ヲ逐ラ之ヲ述ヘシ

第一 物價ノ騰貴

本邦ニ於テ物價ノ騰貴ハ近年殊ニ其著シキヲ

認め是レ果シラ全然銀價下落ノ結果ト謂フハキヤ
曰ク然ラズ前章ニ述ヘタルカ如ク尙ホ他ニ其原因アルヲ
以テナリ則テ其重要ノ原因ヲ擧グルニ概テ左ノ如シ

- (一) 通貨ノ増加并信用ノ發達
 - (二) 近年輸出超過ノ継続
 - (三) 新事業ノ計畫
 - (四) 各地方金利ノ不同
 - (五) 生計程度ノ上進
- 又物價騰貴ノ銀ノ下落ト同一ノ傾向ヲ以テ増進セ
ル所以ニ至ラシ左ノ揚クルモノ其重要ノ原因ト爲ス
- (一) 學術ノ發達及天然力ノ利用
 - (二) 機械ノ發達

(四) 交通、便益及運搬費、低減
(五) 競争区域、擴張

(六) 外國物品、輸入

則多生産力及貨物供給、増加セルカ、為ノ物價ヲ低
下セルルノ作用、非常ニ強カトナレルニ之ヲ導セサレヲ
得ス

此、如ク本邦ニ於テ、物價ノ騰貴、著シケシテ充分之
ヲ確認スルヲ得、キモ其原因ニ至テ、銀貨下落直接
ノ結果ノミニアラザルナリ、唯物價騰貴ノ結果トシテ
債權者ヲ利シ債權者、損失ヲ與フ、キモ亦免レ難
キ所ナリ

第二 輸出増加及外國貿易、関スル商工

業、振起并、農業、好況

本邦輸出貿易ハ金貨國ノ競争上就中東洋
市場ニ於テ非常ニ便益ヲ得、從テ輸出ヲ増進シ高
キ之ニ関係アル商工業ヲ振起シタルハ、争フヘカラサレ
ノ事實ナリ、殊ニ米、如キ輸出品、一ナルヲ以テ
大ニ價格ヲ進メ、農業者、收益ヲ増加シタルトモ亦
認メサルヲ得サルナリ、又此、如キ農工商業者、好況ニ各
種ノ消費稅其他國庫收入ヲ増加スルトモアルヘキナリ

第三 金貨國ヨリ、輸入減少

金貨國物價ノ下落ハ、銀貨下落、程度ニ及、ナルヲ
以テ金貨國ヨリ、輸入品ハ銀價ノ下落ニ從ヒ本邦
ニ於ケル價格、騰貴シタト同一ナルヲ以テ、少輸入ヲ

抑制スルノ結果ヲ生セリ且ツ從來海外ニ行ハシムル日用
品等ニシテ内國ニ於テ製造スルモノ日ニ月ニ増加シタル
ヲ以テ之ト相俟テ輸入ノ増加ヲ制止シタルモノ甚多シテ
ナラサルヘシ

第四 金貨仕掛ノ困難

銀貨下落ノ結果トシテ國庫歳出上金貨ヲ以テ仕
拂フヘキ經費ノ増加シタルハ實ニ驚クヘキモノナリ又独
改存ノミナラス民間ニ於ケル首般進歩改良ノ計畫ニ
必要ナル機械等ヲ金貨國ヨリ買入ルニ當リテ其費
用ノ従前ニ比シテ莫大ナルヨリシテ往々之カ決行ヲ躊躇
スルモノアリ為テ多少進歩事業ヲ妨害スルノ形跡
ナレトセヌ

第五 投機的事業ノ勃興及奢侈ノ弊

農商工業ノ好況ヲ呈スルト同時ニ投機心ヲ興起
シ奢侈ノ弊ヲ馴致シ為テ不生生産的消費ノ比年
増加スルノ傾向アリ是レ大ニ警戒ヲ加フヘキ点ナリトス

第六 勞働者ノ困難

各種事業ノ好況ハ勞働者ノ需要ヲ増加シタルニ
勿論ナリトモ之ヲ騰貴ノ債銀ノ騰貴ニ先
テ幸トスルノミナラス本邦勞働者ニ從來團結力
乏シク其賃銀或ハ協合ヲ除キハ外間ニ習慣ニ依
テ定マレコトアルヲ免レサルカ故ニ其枚下未タ増加セザル
ニ際シ物價就中米酒薪炭等ノ日用品ニシテ
勞働者ノ消費ニ供スル物價ニ益々騰貴スルヲ以テ其

困難定。名状スヘカラサルモノアリ然リ而シテ苟々之カ困
弊ヲ救済セント欲セハ勢々貨銀ノ増加スルノ外ナク
ミナラス是レ實ニ至ラフ事ナリト果シテ然ラハ生産
費ヲ昂騰セシメ物價ヲシラ益々騰貴セシメ遂ニ
輸出ヲ減縮スルニ至ルヘシ故ニ銀ノ下落スルニ從ヒ今
日輸出ノ好況ハ永ク継続スヘシト信スルカ如ク其ニ
ノ甚レキモノト相傳ヘキナリ

第七

幸邦ニ於ケル貨幣需要額ニ超過
セル銀貨ヲ鑄造セサルハカラサレト

以上銀ノ下落直接ノ結果ト認メ難キモノナルハ既ニ述
ヘタルカ如ク命シテ今ヤ之カ直接ノ結果トモ謂フヘキモ
ラ揚テニ銀價ノ下落シ銀貨國取引増加ノ為メ就

中海峽地方ニ於テ多額ノ銀貨ヲ要スルニモ閑セズ之カ
鑄造ハ稍減少セリ然ルニ東洋ニ於テ銀貨自由鑄
造ヲ行フニ独リ本邦ノミナルヲ以テ我造幣局ノ現
況ニテ詔スル如ク存リニ銀貨鑄造ノ依頼ハ増加
シ為メ我貨幣需要額ニ超過セル銀貨ヲ鑄造
セサルヲ得サルノ結果ヲ生ゼリ此ノ如キハ貨幣制度
將來ニ關シ大ニ熟考ヲ要スル所ナリトス

第八 為換相場高低常ナク為メ貿易ノ活
動ヲ来ス

銀價ノ下落ノ結果トシテ為換相場ハ変動常ナク為
メ貿易ヲ活潑セシムルニ最モ親易ナリトス殊ニ
金貨國ニ對シテ取引上ニ於テ甚レシトス然ルニ本邦主

要ノ輸出品タル生糸茶ニ如キハ多クニ全貸國ニ輸
出スルモノナルヲ以テ本邦ノ蒙ル損害ニ一層甚シキモ
ノアリ

第九 全貸國ノ投下ニ係ル資本ノ減少

全貸國ノ投下ニ係ル資本ニ漸次回收セラレ又新ニ
投下セントスルモノハ之カ投下ヲ踴躍シ為ニ外國資本
ノ減少ヲ来スカ如キ亦銀價下落直接ノ結果トシテ
數ハテ可ナルモノナリ然レトモ今日ノ現況若開港場ヲ
除クノ外公然巨額ノ外資ヲ投下スルノ途ナキヲ以テ之
ヨリ生スル影響ハ甚ク大ナラサルニ似タレトモ各開港場
ニ於ケル外國銀行資本減縮ノ如キハ大ニ本邦ノ輸
出貿易ニ關係ヲ有スルヲ以テ強クニ輕視スヘカ

ラサルナリ

之ヲ要スルニ上未列記シタル所ノ影響ハ全然銀
價下落直接ノ結果ト云フハキニテラスモ幾分カ之
ニ懸胎セルモノアリト謂テ可ナリ而シテ其影響中或ハ
利益トナルモノアリ或ハ損失ヲ来シ弊害ヲ醸スモノアリ
虽モ要スルニ一時輸出ヲ増進シ商工業ヲ振起スル
ハ其利益中ノ主ナルモノニシテ勞働者ノ困難及外
國貿易波滯ノ如キハ損害ノ最モ大ナルモノナリ故ニ
銀價下落ノ為ニ本邦ノ蒙ル所ノ影響ハ殊ニ甚シク利
益ノミナリトハ斷言シ能ハサルニミナラズ其損害ノ点モ
亦少カラサルコトヲ認知セサルハカラズ好シ其利益ハ損
害ヲ償ヒテ餘アリト為エモ輸出増進ノ盛況ノ如キ決

レテ永年スハキセ、ニアニナルコトヲモ心ハカラス是レ輸出
ノ増進ハ通貨ノ増加トナリ物價ノ騰貴トナリ遂
輸入超過ニ至ルハ事知ノ順序ニ於テ免レ難キ所
ナレハナリ